

現代社会の「リアル。」を見つめる

～今（リアル）を通して、人を知り、社会を知り、未来を拓く～

代表者氏名（特別支援・2年）園田奈央 他 学生8名

1. 活動概要

私たちは令和元年度に授業で障害当事者の話を聞いたことをきっかけに重度訪問介護の資格を取り、ヘルパー活動を始めた。以前の私たちは、障害当事者と深く関わる機会がなかったため、無意識に「障害者」としてしか見ていなかったように感じる。しかし、ヘルパーやボランティア活動を通して多くの時間を共にし、語り合う中で、「障害者」としてではなく「ひとりの人として」関わるようになった。

そして出逢った当事者の方と接して話を聞くうちに『みんなが地域で生活できる社会』ということを目にするが、現実はどうなんだろう』ということに疑問を持つようになった。その視点でヘルパー活動やボランティア活動に入ることによって「今までの学校生活や授業の中では、当事者の現状に気づくことができていなかった」という事実を感じた。障害の有無に関わらず、共に語り、共に遊び、共に学ぶ中で、お互いを知り、考えていきたいと思った。

我々の考える「リアル。」とは、良いことも悪いこともすべて含めた目の前の現実を意味する。

周りには接点が少ないから知らない、考えたことがないという人が多い。そこでこの企画を通し、『自分たちからすすんで学び、広めていく。周りの人たちも巻き込んで考える。』というきっかけにしたいと考えた。

愛教大生の多くは、将来教育現場でいろんな子どもと関わる。様々な考え方に触れ、考え方の引き出しを増やすことで多様性

を受け入れられる人になってほしいと考える。また、地域で生活する障害当事者が多くいる。愛教生のみならず、地域で生活するすべての人がお互いの現状を知ることによって、より生活しやすい社会を作ることにつながると思う。

2. 実施状況

【令和2年10月3日実施】

映画企画第一弾 方法：オンライン

参加者：9名

映画「おとなの恋の測り方」を視聴し、参加者同士のディスカッションを行った。



【令和2年11月29日実施】

講演会第一弾

方法：オンライン

参加者：36名

講師にマセソン美季氏を招き、海外と日本の障害者の環境の違いや、インクルーシブ教育等をテーマとし、開催した。



現代社会の「リアル。」を見つめる
～教育～

障害 特別支援教育
スポーツ 海外
差別 価値観
教育 学校 共に学び
共生社会 共に語り
障児 考えよう

日時：11月29日(日)
AM 10:30～12:00

【タイムスケジュール】
10:30 入室完了
10:30 講演開始
11:30 オンラインセッション
12:00 終了予定

講師 国際パラリンピック教育委員
マセソン美季氏

大卒時代の交通事象で資格を履修し、
難い学生生活と卒業後、
就職先の違い(1998年アイスレング
スワールドカップ出場し、世界記録を刷新。
選手生活、二児の母、
大学の公益小売店で教員経験あり。

※ZOOM開催、参加費無料
参加申し込みフォーム
締切日：11月15日(日)

ご連絡先
Instagram @real_accel
Twitter @real_accel

主催：和歌山県学生ボランティアネットワーク



【令和3年1月24日実施】

講演会第二弾

方法：オンライン

参加者：28名

講師に寺嶋千恵子氏を招き、半生について語っていただき、参加者同士のディスカッションを行った。



【令和3年2月6日実施】

映画企画第二弾 方法：オンライン

参加者：17名

映画「ワンダー～君は太陽～」を視聴し、参加者同士のディスカッションを行った。



3. 成果

《映画企画》

・映画のテーマがわかりやすく、「障害」に限らず様々な視点で議論することが出来た。

・「映画」ということで障害分野に関わっていない人でも踏み出しやすい企画とすることが出来た。

・複数のメンバーで同時に映画を見て、直後に議論することで、一人で見ていたら気が付かなかった視点到気付くことが出来、またその場で障害当事者の意見を聞くことが出来る機会になった。

《講演会第一弾》

・オンライン開催としたことで、カナダ在住の講師を呼ぶことができた貴重な機会を作ることができた。

・講師として誰をお呼びするかを決める段階から、自分たちの思いや企画の目的を大切に、進めていくことが出来、賛同していただけたことで著名な方を呼ぶことが出来た。

・ZOOM 機能を駆使し、大人数でも活発な意見交換をすることが出来た。

《講演会第二弾》

・「家族」というテーマにふさわしい方を講師に招くことが出来た。テーマも「出産・家族」と自分ごとにしやすいテーマに絞られていたことで、ディスカッションも活発に行うことが出来た。

《企画参加者の声》

・社会を変える一歩を踏み出したい。

・特別支援の教師になろうとしているので、とても貴重な話だった。

・直接障害のある方の話を聞く機会が今までなかったのが良かった。

・今まで、障害があるからできないという「できない」の部分ばかり見ていたけど、どうしたらできるのかという考え方に変わらせた。

⇒上記のような声が多く挙がった。

私たちの目的であった、「周りに障害のある人がいない生活を当たり前だと感じている人たちに何か考えるきっかけを作ること」「実際に関わることで様々な問題に

対して当事者意識をもち、自分事として捉えられるようになること」を達成できたと感じた。

《企画全体を通して》

- ・企画段階から当事者団体と連携して打ち合わせ等を行ってきたことで、講師の方に限らず、参加メンバーの障害当事者からも意見を聞き、理解を深めることができた。
- ・愛教大生と障害当事者が関わる機会を作ることができた。
- ・学年、学部、学科の偏りなく参加があり、年齢、障害の有無等、立場も違う人の考え方を知ること、新たな価値観に触れることができ、視野が広がった。
- ・「質疑応答」「ディスカッション」に関わらず、様々な議題や意見が出た。テーマについて活発な議論が行われたことで、より「自分だったらどうするか」という自分事として考える機会とすることが出来た。
- ・学年、学部、学科の偏りなく参加があり、年齢、障害の有無等、立場も違う人の考え方を知ること、新たな価値観に触れることができ、視野が広がった。
- ・企画を通して、多様性を感じることができ、共生社会への気づきを得られた。



4. 今後の展望

今年度は新型コロナウイルスの影響により、企画内容に制限があった。その中でも、オンラインだからこそいろんな人とつながることができる実感したため、来年度も、様々なツールを活用し、レベルアップした企画を進めていきたい。

「講演会 第二弾」は対面での企画の予定だったが新型コロナウイルスの影響により断念せざるを得なかった。オンライン開

催でも、ディスカッションで直接会話することもでき、学びを得ることはできた。一方で、対面の開催では、体験活動なども取り入れることが可能で、より自分事に捉えやすいと感じる。また、障害当事者ともっとフランクに話せる機会を作りたいため、ぜひ対面の企画を開催したい。

周りには障害当事者との接点が少ないから知らない、考えたことがないという人がまだ多くいる。そこでこの企画を通し、『自分たちからすすんで学び、広めていく。周りの人たちも巻き込んで考える。』というきっかけにしたい。この目標のために、今回の参加者をはじめ、さらに多くの人を巻き込んで活動していきたい。

今年度のチャレンジ・プログラムとしての企画は終了したが、3月に愛教大 OGの方にお話しして頂く、交流会を開催予定である。また、来年度も企画を開催するために、新しいメンバー募集している。今年度行った形式にとらわれず、活動していきたい。

この企画を通して、地域で生活するすべての人がお互いの現状を知ること、より生活しやすい社会を目指していきたい。

5. 決算

予算：400,000円, 残額：123,800円

費目	支出額
○ 備品 ・ビデオカメラ	120,000円
小計	120,000円
○ 消耗品 ・はちまき ・コロナ対策備品 ・PR動画・チラシ製作費用 ・インク ・ハードディスク	8,800円 5,000円 15,000円 11,000円 13,400円
小計	52,400円
○ 旅費 ・(支出なし)	0円
小計	0円
○ 謝金 ・講演会第一弾 ・講演会第二弾 ・はちまき加工委託料	50,000円 20,000円 32,000円
小計	102,000円
○ その他 ・御礼品 郵送料	1,800円
小計	1,800円
合計	276,200円

6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	2年	園田奈央	特別支援
2	2年	井上愛	特別支援
3	2年	岩城凜音	特別支援
4	4年	永岡栞	福祉
5	3年	丸岡慧也	初等数学
6	2年	青山晃久	教育ガバ
7	2年	安室穂	特別支援
8	2年	岡彩矢香	特別支援
9	2年	佐藤晨陽	初等社会
10			
11	教員	小倉靖範	特別支援
12			